

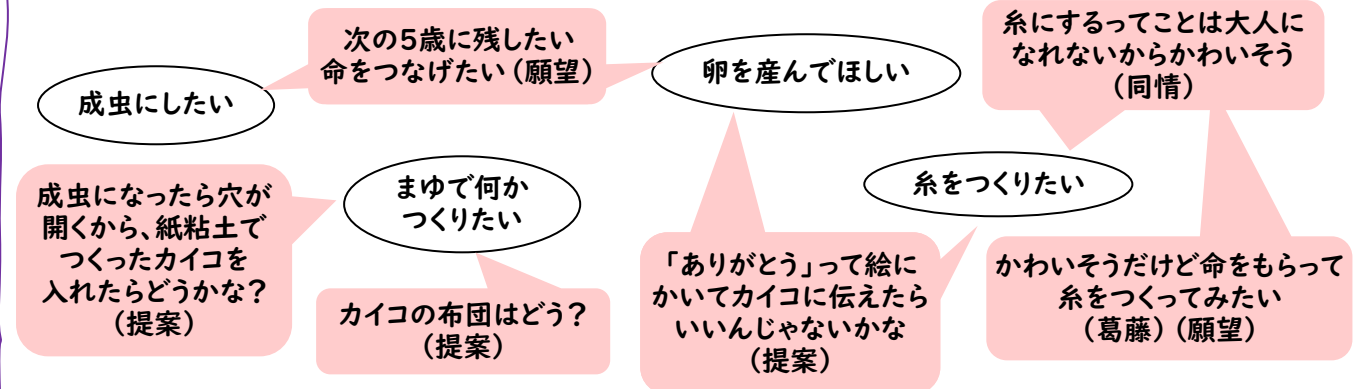
## エピソード

約1か月間、卵から孵化したカイコを飼育してきました。幼虫が脱皮を繰り返して大きくなり、繭をつくりサナギになり始めました。飼育を始めた頃から「どうやって世話をしたらいいか」「どのように成長していくか」図鑑を見ながら知らせたり、みんなで考えたりしてきました。図鑑を見たり飼育したりする中で、「カイコは繭の中でサナギになる」「繭から出てきた成虫(カイコガ)は卵を産む」「成虫は食べることや飛ぶことができず、卵を産んだら約1週間で死んでしまう」「繭から糸をつくることができる」「糸を取るには繭を冷凍して茹でるため、サナギは死んでしまう」といったことを知っていました。繭になってきたカイコがいたので、『繭(カイコ)をどうしたいか』を話し合うことにしました。

## &lt;話し合い①&gt;

①「カイコを育ててどんな気持ちだった?」——③「かわいい」「ぷにぷにだった」「大きくなってうれしい」「繭になってうれしい」

①「繭になったカイコはどうしたい?」

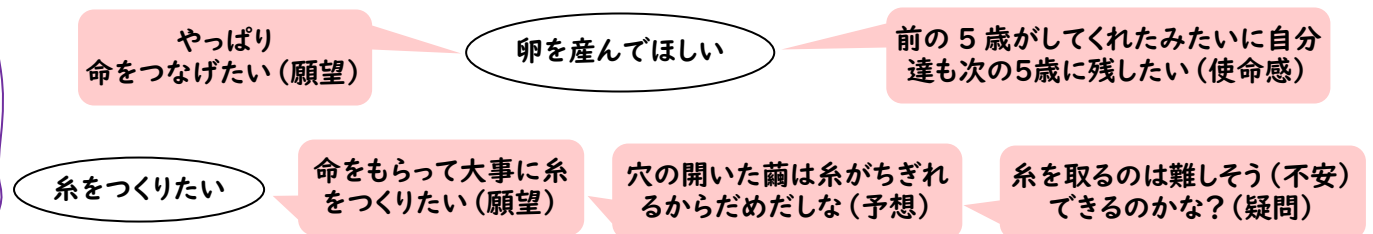


出てきた考えに、提案したり気持ちを伝えたりしていました。いろいろな思いや考えが出てきていましたが、子ども達の中で納得する考えには至りませんでした。①「答えは一つじゃないと思うし、まだ繭になってないカイコもいるし、またみんなで話し合おう」③「うん、また考えとく」と、この日の話し合いは終わりました。

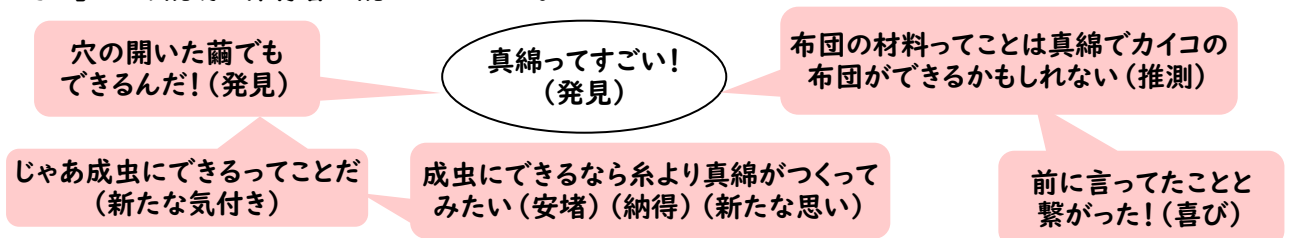
数日後、繭をどうしたいかまた話し合うことにしました。

## &lt;話し合い②&gt;

①「この前は、卵を産んでほしい、繭で何かをつくりたい、糸をつくりたいって言ってたけどどうかな?」



①「どうやって糸をつくるのかみんなで見てみようか」と、図鑑でつくり方を見えることにしました。図鑑にもみんなが知っている通り、茹でることがかかれており、「こども園でできるのかな?」と少し不安な気持ちになっていました。ページをめくると同じように繭を茹でたあと、指で繭を広げている絵がかいてありました。「繭を薄く引きのばすと真綿ができる」「真綿は昔から布団や防寒具の中に入れて使われていた」「真綿は穴の開いた(成虫が出た後)繭でもつくることできる」という説明を保育者が読んでみました。



「命をもらって糸をつくってみたい」と言っていた子も「真綿なら成虫にした後にもできるから真綿をつくってみたい。成虫にもしたい」と、新たな思いが生まれていました。「繋げて大きなカイコの布団をつくったらいいやん」「私は人形もつくってみたい」「それなら自分で育てたカイコの繭をどうするかは自分で考えたらいいんじゃない?」と、互いの思いを伝え合っていました。①「じゃあみんな成虫になるのを待って、そのあとの繭を何かに使うってことかな」③「うん」と納得した様子で、成虫が羽化するのを待ち、繭の使い方は時間をかけて考えることになりました。

## 子どもの育ちや学び



繭になってうれしい  
(喜び)



成虫になって  
ほしいな  
(願望)

繭で人形をつ  
つてみたい  
(願望)



糸を取るために繭を  
茹でるのはかわいそう  
(同情)

穴が開いた繭でもつく  
れるものがあるんだ！  
(発見)

### 真綿のつくり方



- ・繭をどうしたいか話し合う中で、自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いに耳を傾けたりする。
- ・相手の考えを受け止め、考えに対して提案や感じたことを伝える。
- ・図鑑で得た知識や飼育する中での気づきから、繭(カイコ)をどうしたいか自分なりの思いをもつ。
- ・繭をどうしたいかを考えることで、命の大切さや、人は生き物の命をもらって生きていることを感じる。
- ・話し合いで、新たな思いや考えに触れることで、納得できる考えを見つけ出そうとする。
- ・真綿という新しい繭の使い道を知り、話し合いで出ていた『カイコの布団』というキーワードと繋がったことで、成虫にしたい思いと、繭を加工したいという思いの両方を叶えられる方法を見つけ出す。

### 保育者の思い

- ・カイコへの親しみや愛情が高まる中で、カイコだからこそできる繭の不思議さやすごさ感じていました。繭をどうしたいか子ども達で話し合い、自分達が納得するまで考えてほしいと思い、時間をかけて話し合うことにしました。
- ・「成虫にしたい」「卵を産んでほしい」という子が多数派かな、と感じていましたが、話し合うことで友達の思いやいろいろな考えに触れてほしいと思いました。
- ・子ども達は「糸を取る＝命をもらう」ということを知識として知っていても、どこまで実感として理解しているかはわかりませんでした。話し合いの結果として糸を取ることにになれば、最後まで子ども達と一緒に取り組むことを大事にしたいと思いました。
- ・命をもらうのはかわいそうだけど糸を取りたいと、葛藤を感じている様子もありました。図鑑をしてみることで、真綿という方法を知り、子ども達がまた新たな考えを出し合うことになればいいなと思いました。

### 家庭だったら

- ・カイコの繭から生糸をつくるために、人間がいなければ生きていけないように進化してきました。カイコの飼育を通し、大切に育てる気持ちや自分なりに命に向き合う機会になってくれたらと思っています。家庭でもカイコの飼育を通して感じたことや考えたことを聞いてみてくださいね。